

しんらん同人

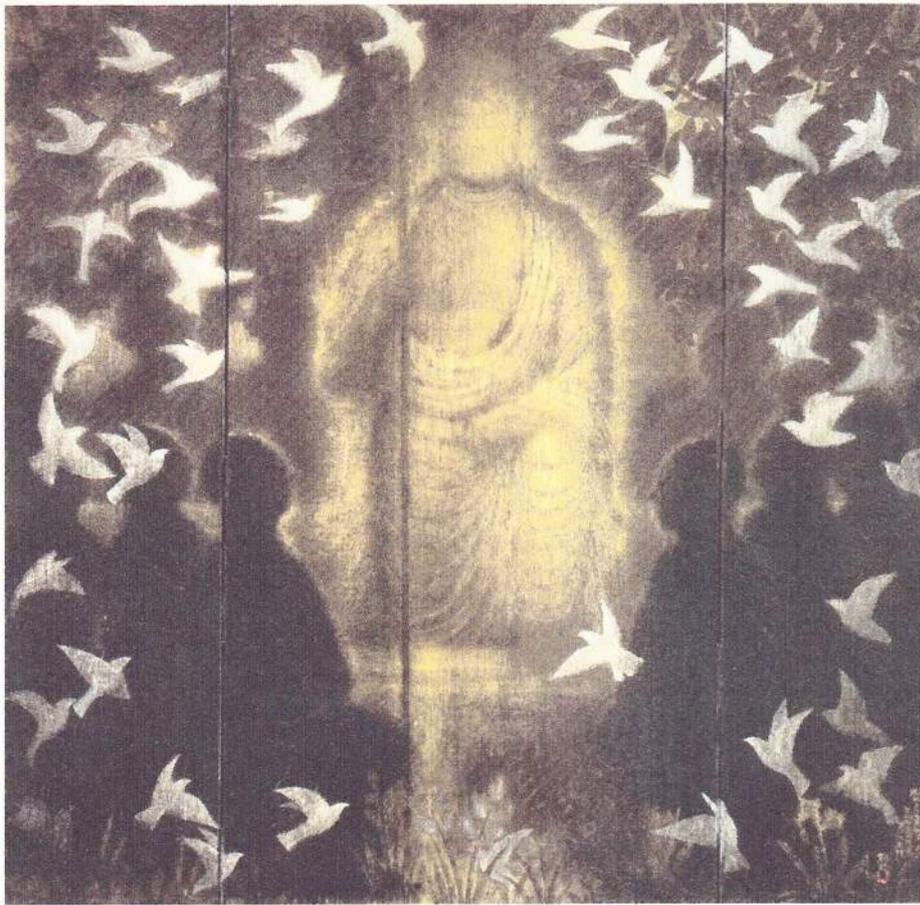
NO, 504

5月号

二〇一三年五月一日発行 郵便番号1-0052  
発行所 東京都豊島区南長崎一丁目八番 誓願寺  
TEL 395507828 FAX 395506820  
E-MAIL SEIGANJI@RESET.JP

### 出現

体から金色の光を発しながら厳かにたたずまれた釈尊の姿を描き、入涅槃幻想（四月号掲載）の続編、釈尊の入寂この復活を表し、弟子や白い鳩の群れなど前作とよく似ている。



### 大きな安らぎ

慈光はるかにかふらしめ  
ひかりのいたるところには  
法喜をうとぞのべたまふ  
大安慰を帰命せよ

慈光とは慈悲の光。はるかにかふらしめとは、光明は遠く十方の衆生に及ぶということ。ひかりのいたるところとは、信心開発のころをいう。法喜とは「みのりをよろこぶころ」。大安慰とは、「大安慰は弥陀のみ名なり。一切衆生のよろづのなげき憂え、わるきことをみなうしなふてやすくやすからしむる」ということであります。

### 永代経法要

五月二十六日（日）午前十時

全体の意味は「阿弥陀如来の慈悲の光明は十方の衆生を照したまふ。その光を仰ぎ如来の本願を信する者はみのをよろこぶころがめぐま

れ苦悩も悲痛も転ぜられて安らかな心にさせられるのである。されば大安慰たる阿弥陀仏のお救いを信じさせていだきたいものである。」

一般に（時折例外もある）家庭は安らぎの場所であります。外に出た時は緊張し、自己を守り、自分をかざり、言いたくないことも言ったり、笑いたくない時に笑ったり、いろいろ気を使うものですが、家へ帰ると一切をぬぎすて、伸び伸びと足をのばし、あるがままに語り笑い、腹をたて愚痴もこぼすことができる、そんな解放された場所が家庭でありましょう。つまり家庭こそ安慰の場であります。如来の本願を聞き、如来のまごころを聞かせて頂いてみると、煩惱具足のこの身が、そのまま慈光に包とられていることを知らせて頂くのであります。

善に誇ることもなく、悪をもおそれることのない、あるがままに手足をのばし切れる、そんな安らさが恵まれるのであります。

往生ほどの一大事凡夫の計らう

べきことにあらずと仰せられるように、往生の一大事は、唯本願力ひとつによるのであります。如来のお計らいひとつで往生させていただくのであります。

欲を起してはならぬといわれても毎日が欲の生活であります。腹をたててはならぬ、愚痴をこぼしてはならぬと思うてみても、縁にふれると腹もたち、愚痴もこぼれるのであります。しかし少しも案ずることはありません。そうしたわたくしを案じ、この者をめあてとして本願がおこされ

たのであります。どうしようもない者のための南無阿弥陀仏であります。

どうしようもないまんま慈光に包まれているのであります。気張ることもない、りきむこともない、如来の大悲に安心させて頂くのであります。このままがお浄土に通ずる道であります。この道をゆく、しあわせを思い、お念仏もろとも御恩報謝のいなみを行い、はげむ生活をさせていただくのであります。



口から如来の働き

聖人は京の佗び住まいで末娘の王御前に看取られて静かにお亡く

なりになりました。そのころ高僧が死ぬと天の彼方から音楽が響き、西方から阿弥陀如来が迎えにお出ましになるといわれたものでした。ところがなにごともなく、「ついに念仏の息たえまし終りぬ」と御伝妙にあるように、平凡なご往生でした。娘にすれば父・親鸞聖人は関東の門弟たちが、「権化の仁・阿弥陀如来の化身」

とまで仰がれたのですから、余りにもあつけないご往生にふと不安

感を覚ええました。だが流石に母親の恵信尼はしつかりしていました。越後から王御前に当て、

「殿のご臨終はどのようなであらうとも、特別のことがあろうがなかるうが、浄土へ往生なさったことは少しも疑いませぬ。申すまでもなく必定のことと存じます」

と書き送られています。恵信尼は親鸞聖人と別れて三十年になります。それでも聖人の仰せられた他力の信心を堅くいただくかかって、

「母はこのように思っています。あなたもはつきりとお心得になつて下さい」

と申されたのでした。

私の郷里九州では結婚式や披露宴は自宅でいたします。都会で結婚式を済ませた人でも披露宴は故郷で行います。そのため準備もかなり前からいたします。ある家で花婿を迎えること

になりましたので、知人の紹介で近くのお婆さんに来てもらうこととなりました。紹介者の話では念仏を喜び、羨ましいほど和やかな人だということで安心して頼みましたが、一晩もしないで遠慮してもらったこととなりました。どうしたことかと尋ねますと、披露宴のご馳走を作りますが、ひつきりなしにお念仏します。念仏なんてとんでもないというのです。悲しい時、苦しい時ならともかく、めでたい時に称えるものではないと思っていたからでしょう。

これも郷里の話です。さんが電車の中でお念仏をしました。前に座っていた人が

「なんでこんなところで念仏する、止めてくれ」

「これは済みませんでした」

と謝りましたが、ついまた、「なんまんだぶ」といつてしましました。なんどいわれても口癖になっていますので止められ

ませんでした。前の人はついに怒っていきなりSさんの頬を殴りました。よほど念仏が嫌いだったのでしょうか。Sさんはもう口にするのでもありません。Sさんはいつの間にか称えている自分に気付きませんでした。ある同行のお父さんはお念仏を喜ぶ人でした。食事の時もお念仏します。娘さんが、

「お食事の時ぐらい黙っていて下さいよ」といいますと、お父さんいわく、

「出て来るものが止められるか」娘さん、今はもうお婆さんになりましたが、当時を回想して、

「心に染み付いていたのでしよう。いまは私も喜ばせていただいています」

とっておられました。自分からするならともかく、仏さまの方から呼び声として私の上に出て下さるのだから、止めようとしても止められはしない。如来ご廻向の念仏ということをお父さんは味わっておられたのでした。

### 彼岸会法要厳修

高田慈昭和上をお迎えして、三月二十四日、法要を勤めた。はじめに各自仏前に献灯し、先に亡くなった方を偲び、今彼岸への道を歩ましていただいている事をよるこんだ。



### 「釈尚文」その三

昨年得度を致しましたので、その記憶が新しい今の気持ちを整理しながらご報告いたします。心に残っている言葉は、「領解文」「七高僧の發揮」です。「領解文」は、得度習礼までにとにかく暗記しなければなりません。

最初は個々の文字をそのまま暗記しましたが、余裕出てくるとそれぞれの意味が理解されました。理解が深まれば深まるほど「領解文」のすばらしさが身にしみてきました。

半年前までは何も知らなかった私にとって、これほど短い文章で、浄土真宗の教えを顕しているものはないと思つた次第です。皆様も是非暗記していただきたいと思ひます。

「七高僧の發揮」は、講義の中で教わつたものです。七高僧の教えを順番に整理していくことは、今から正しい教えを学んでいこうとしている者（私）にとって大切な道のりだと思ひました。

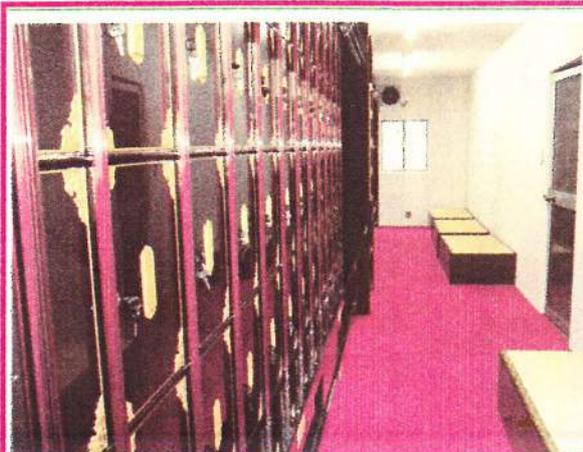
聴聞することは大切なことですが、それ以外に「七高僧の發揮」を自分の課題にしたいと考えて居ります。

新しい生活のリズムも少しずつ出来てきました。勤行が未だ不十分ですが、今しばらく時間をいただきたく存じます。

### 新しい納骨壇

今、生きているうちに、あなたの納骨壇を用意しませんか。核家族となり、親子の関係もだんだん変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。

そこで新しい納骨壇を作りました。これはお寺の方で永代に供養できる一人用の納骨壇です。一基三十万円です。百基作りました、場所等は先着順です。管理費は一年一万二千元です。早めにお申し込みください。



## 編集後記

◎今年から、年度変わりを四月から三月といたします。二十五年度の誓願寺護持会費並びに管理費をよろしくおねがいたします。

◎古賀尚文君と恭子で、これからの実務を引き受けてくれました。何でも気楽に相談してください。

◎彼岸中日の次の日、夕方、外で遊んでいたナナ(猫)を呼んだ。喜んで跳んでかえる途中、たまたまスピードをだしてきたタクシーに衝突、その場で血を流し、死んでしまった。

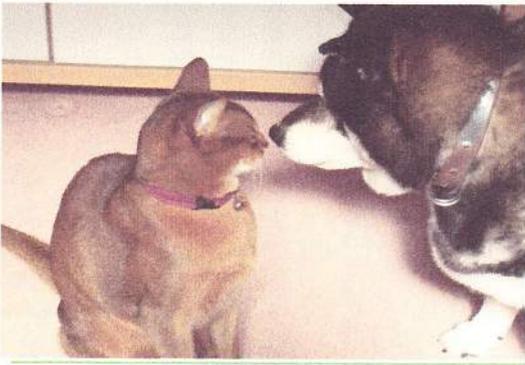
◎目の前の惨事にわれを忘れた。ナナは、非常に慣れっこい、可愛い猫で、何時も私の後についてきていた。この悲しさは、言葉では表せない。何

でこんなに苦しい事、辛い事、いやな事が続くのだろうか。坊守の死、わたしの病氣、ナナの死、今までみんなのおかげで、幸せな日暮だったので、辛さが身にしみる。

◎ただ、辛いときにいつの間にか私の口からお念仏がでてくださる。その度ごとに思い返し、お念仏が味わえる。これまた有難い事である。

◎リキはナナが死んだ事は知らない。坊守を毎日玄關で待つていたようにいつも動かない。体を悪くしないか心配である。

◎四月十七日に順天堂病院に行き手術の日が決まる。



今まで体のどこも切ったことがない。なんとなく不安がある。

◎ナナの死が耐えられなく、三代目のナナを購入した。アビシニアンの六ヶ月の子、今私の横で飛び回って遊んでいる。可愛い。癒しになる。

### 祥月命日の方々

小柳半吾 香川順夫 藤井尚久  
平岡タツ子 中村裕 武部テイ  
佐藤廣 林 美奈子 西島直己  
野崎安雄 大野恒一 荒木数雄

### 平成二十五年五月回忌法要

開明院 釈吾巖	小柳半吾	1989/5/1	二十五回忌
諦観院 釈順修	香川順夫	1997/5/8	十七回忌
至誠院 釈尚久	藤井尚久	1979/5/12	三十七回忌
願楽院 釈浄達	平岡タツ子	2001/5/12	十三回忌
願正院 釈裕信	中村裕	1981/5/15	三十三回忌
普薫院 釈尼浄諦	武部テイ	1991/5/15	二十三回忌
勤善院 釈広海	佐藤廣	1991/5/19	二十三回忌
英淑院 釈尼優美	林 美奈子	1997/5/19	十七回忌
諦観院 釈直翁	西島直己	1991/5/20	二十三回忌
顕数院 釈浄安	野崎安雄	1989/5/28	二十五回忌
愛楽院 釈恒順	大野恒一	2011/5/28	十三回忌
温光院 釈数西	荒木数雄	2011/5/28	十三回忌

九月二十九日(日) 午前十時  
仏法ひろまれ!

### 五時間連続法座

誓願寺婦人会

(川内八重子会長) 主催

次の八人の講師を依頼し、連続法座を行う。

武内英真、高澤正文、高田慈昭、植木政隆、大島一声、雪山玲子、宮崎幸枝、東条明子の各師

場所 誓願寺本堂